

令和2年度 学校関係者評価 評価表の集計結果

飯塚市立八木山小学校

		【評価基準】 よくできている…3点、だいたいできている…2点、 少しできている…1点、できていない…0点	保護者	学校 運営 協議会	教職員
区分	No.	評価項目	評価	評価	評価
管理運営	1	通学の安全確保について保護者との情報共有ができている。	83.3	90.5	87.9
	2	保護者に対する教育相談を行っている。	87.5	90.5	93.9
	3	評価が計画的になされ、その改善が図られている。	83.3	81.0	93.9
	4	校区内保幼小中との連携が図られている。	81.0	81.0	87.9
	5	地域のコミュニティスクールとしての機能を果たしている。	81.5	91.7	97.0
教育活動	6	子どもたちは、すすんで学習に取り組んでいる。	81.5	85.7	73.3
	7	しっかりと考える子どもの育成が図られている。	83.3	79.2	86.7
	8	基礎・基本を身につけた子どもの育成がなされている。	81.5	83.3	85.2
	9	子どもたちは、時間を守って生活ができている。	77.8	85.7	86.7
	10	子どもたちは、人の話をきちんと聞くことができている。	74.1	79.2	63.3
	11	子どもたちは、正しい言葉づかいやあいさつができている。	74.1	79.2	69.7
	12	子どもたちは学習内容を理解できている。	83.3	87.5	66.7
	13	子どもたちに関する賞賛や評価が適切に行われている。	87.5	87.5	96.3
	14	教科のすすみ具合いやその内容について、家庭への連絡ができている。	91.7	100.0	92.6
	15	地域の教育力「ひと・もの・こと」の活用が積極的にできている。	83.3	83.3	100.0
	16	体力向上の取組(相撲大会・持久走大会・縄跳び等)がなされている。	87.5	87.5	97.0
	17	知・徳・体の育成が学校ぐるみで取り組まれている。	83.3	85.7	100.0
環境整備	18	教室、廊下、運動場など安全面に配慮した整備がなされている。	77.8	91.7	93.9
	19	教室・廊下等に掲示物が適切に掲示され、教育効果に結びついている。	77.8	85.7	84.8
	20	学級・学年・学校園、花壇等、環境整備がなされている。	88.9	91.7	97.0
	21	学校開放や授業参観など、家庭や地域への公開は十分になされている。	92.6	95.2	93.9
令和2年度 平均達成率			83.0	86.8	88.0
令和元年度 平均達成率			81.5	90.9	84.5
平成30年度 平均達成率			84.8	85.8	83.3

※ 学校運営協議会の委員には、PTA役員及び会員が含まれている。

※ 保護者は、学校運営協議会の委員になっていない9名が提出している。

【考察】

- 教職員の評価表の平均達成率は、今年も上昇し、昨年度より3.5%上がって88.0%であり、コロナ禍でも感染予防対策をしながらの努力を実感していると判断できる。しかし、平均達成率が70%未満の項目(No.10子ども達の話の聞き方、No.11言葉づかいやあいさつ、No.12学習内容の定着)については課題が残っている。さらに、個に応じた支援や指導を保護者と連携して行っていきたい。保護者の評価は昨年度より1.5%上がっている。しかし、コロナ禍で実施できなかった行事がかなりあったため、学校運営協議会の評価は3.9%下がっている。児童数の減少の問題や小中一貫校との合同研修会などで連携をしながら、コミュニティスクールの取組を行っていきたい。今年度の本校の教育については、保護者からの貴重な意見をもとに再度見直しを図り、来年度の計画に位置付けていく必要がある。
- No.1の「通学の安全確保について保護者との情報共有ができています。」については、昨年度の平均達成率79.5%と比べると、保護者が83.3%と3.8%上がっている。保護者との情報共有を図っていくために、昨年度より、全世帯に「すぐメール」へ登録していただいた成果だと考える。今後も、児童の安全を守るために、文書でお知らせしたり、学校だよりやHPに掲載したりすること、積極的に「すぐメール」を活用し発信していくことが必要である。
- No.4の「校区保幼小中との連携が図られている。」について、昨年度の平均達成率と比べると、保護者は81.0%と6.0%上がっている。また、教職員では6.1%上がっている。しかし、学校運営協議会で4.7%下がっている。昨年度より、校区教務主任会もでき、交流もスムーズになりつつある。しかし、コロナ禍で十分な連携がとれなかったこともあり、連携についての周知や説明が保護者に対して不十分だったと考える。評価結果やその改善策などを学校だよりやHPなどに掲載し、周知を図るとともに、懇談会などで保護者の意見を集約していく必要がある。
- No.10の「子どもたちは、人の話をきちんと聞くことができています。」については、昨年度の平均達成率も低く、本年度は保護者74.1%で昨年度より2.3%プラス、教職員が63.3%と3.3%上がっているが、学校運営協議会が79.2%と6.5%マイナスで、低い評価が続いている。少数で聞き取りやすい環境ではあるが、配慮を要する児童の増加に伴い、学習規律の徹底が十分でなく、ルールを守れていない状況があると考えられる。今後は、ユニバーサルデザインの視点から、学習スタンダードを見直しながら、傾聴する姿勢や集中力を高めていくとともに、特別支援学級・情緒学級を中心に通級指導教室や関係機関とも連携しながら、個別の教育的ニーズにあった支援を進めていく必要がある。
- No.12の「子どもたちは学習内容を理解できています。」については、昨年度の平均達成率と比べると、保護者が74.1%で2.3%、学校運営協議会が87.5%で1.8%上がっているが、教職員が66.7%と昨年と同じである。協調学習やプログラミング学習、複式学級における「わたり」「ずらし」授業について研修も行い、指導技術は向上してきている。また、子どもたちが自分たちで学習を進めることもできるようになっている。その結果、学力標準検査NRTや学力調査、チャレンジテストでは、全国平均を超えている。しかし、学年や個人での格差が大きく、全国平均を超えていない項目もある。また、家庭学習の時間も少ない。また、来年度は、ユニバーサルデザインの視点をもとに、自ら学ぶ力の育成や家庭学習の充実を図っていく必要がある。
- No.14の「教科のすすみ具合やその内容について、家庭への連絡ができています。」については、昨年度の平均達成率と比べると、教職員は92.6%(昨年87.5%、保護者が91.7%(昨年79.5%))と12.2%、学校運営協議会が100%と9.5%、それぞれ上がっている。各学力検査の結果を学校通信などで知らせたり、感染予防対策をしての保護者との個人懇談をしたりした結果だと考える。さらに、教科のすすみ具合やその内容については、学級通信に掲載したり、懇談会等で説明したりしているが、電話や迎える時間での懇談など折にふれ連絡していく必要がある。
- No.15の「地域の教育力『ひと・もの・こと』の活用が積極的にできています。」については、昨年度の平均達成率と比べると、保護者が83.3%と1.3%、学校運営協議会が83.3%と11.9%、それぞれ下がっている。今年度は、コロナ禍でゲストティーチャーをお呼びできないこともあり、総数は昨年度の341名から263名と減っている。児童数が少なくなったこともあり、獅子舞や相撲大会など、次の担い手を育成していくために、見直しを図っていく必要がある。また、保護者に対しては、今後も学校だよりなどに掲載して啓発していきたい。